



車輪梅

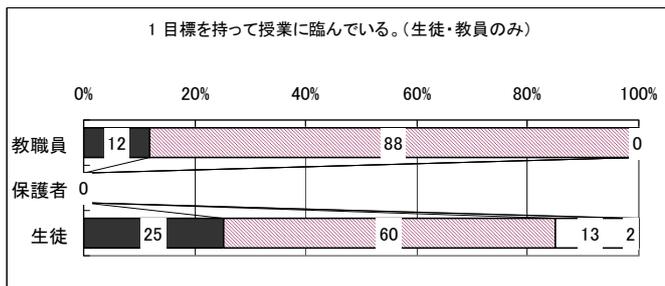
＜鹿島中学校 学校だより＞

【平成30年2月号②】

寒さ厳しき折、インフルエンザにご注意を！ 《重点目標》 『品格を備え、課題を持って今の自分を高めよう』

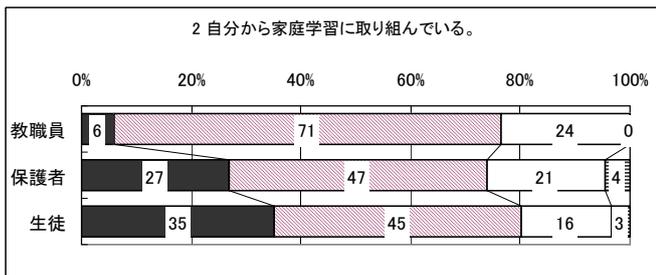
学校評価の結果より (1) ~知育面から~

保護者や学校関係者による学校評価などでは、今年度も本校の教育活動について概ね肯定的な評価をいただきました。今年度の学校評価で課題として指摘された部分に関しては、本校教育活動の課題として改善していきます。



1 目標を持って授業に臨んでいる。(生徒・教員のみ評価)

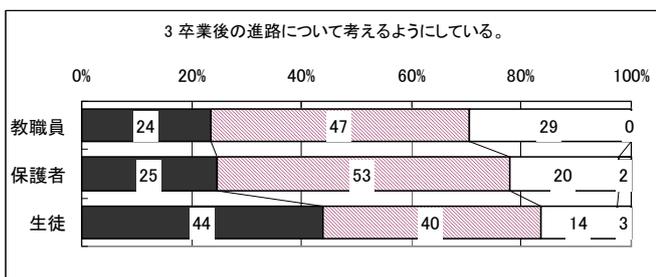
教職員、生徒、ともに評価の平均値は同じであり、全体平均評価が「3.1」ではあるが、教職員と生徒の回答状況には違いが見られる。例えば、A評価について焦点を絞ると、教職員に比べ生徒のA評価%が約2倍にも達している。これは、①教職員の評価が厳しい、②教職員が目標を持って授業に臨んでいる生徒の実態を正しくとらえられていない、③生徒の自己評価が甘い、④生徒は「目標を持って授業に臨む」にふさわしい態度をとる必要がある、が考えられる。



2 自分から家庭学習に取り組んでいる。

A評価に焦点を当てると、教職員と生徒との間には、約6倍もの差があり、認識のずれとなって表れている。学級担任は毎日、自主学習ノートの取り組み状況について丁寧にチェック・指導し、励ましたり疑問に答えたりしているが、十分な家庭学習ができているとはとらえていない。生徒は家庭で机に向かうものの、時間を有効に活用し、集中して取り組んでいると言えるまでにはいない実態があると思われる。自主学習ノートの提出状況に目を向けると、ほとんどの生徒は自主学習ノートの

を毎日提出しているが、残念ながら提出することができない生徒もいるのは事実である。生徒の取り組みの実態に大きな差がある。生徒の実生活に目を向けると、部活動終了後、引き続きスポーツ少年団の練習で時間が割かれる生徒もおり、時間の使い方も課題の一つとなっている。生徒の実態にもよるが、**家庭学習はどのようにして進める必要があるのかを確認し、家庭(保護者)にも生徒に指導した内容を伝え、家庭と連携していく必要がある。**



3 卒業後の進路について考えるようにしている。

今年度、新設した評価項目である。生徒一人一人の夢や希望、進路を自己実現するために欠かすことのできないことが「学習」であるということを生徒が実感を持って理解することは、その後の学習へ取り組む姿勢、モチベーションを維持・向上させていく上で大変重要なことである。

生徒の評価が一番高い結果である。生徒の学年ごとの結果を見ると1→2→3と学年が上がるにつれてよい結果となっている。これは、2年での看護師に学ぶ

会、3年での介護体験教室や職業人の話を聞く会などが進路について考える機会となり、また、卒業が迫ってきていることが理由と考えられる。しかし、教職員の評価はA評価に焦点を当てると生徒の評価の1/2である。生徒は進路については考えているものの、それが学習の動機付けとなるまで現実的に考えるまでにはいたっていないととらえることができる。前評価項目の「2 自分から家庭学習に取り組んでいる。」の教職員の評価結果と照らし合わせても、そのように推察することができる。

<今後の改善策>

授業の導入における「課題把握」時により工夫をこらし、授業に臨んでいる生徒一人一人にとって、「よし、この授業では、〇〇を達成させるぞ」という目標を持ち、意欲的かつ主体的に取り組む姿が見られるように、福島県「授業スタンダード」や南相馬市「9つの課題」の取り組みを自校化して、一層推進していく。

家庭学習で予習や復習をすることにより、授業内容を確実に、また深く理解することにつながり、学力向上に向けた相乗効果を生み出すことができると考える。学力向上に向け欠かすことのできない最も大きな課題の一つとしてとらえ、県の家庭学習スタンダードを参考にしつつ、今後の現職教育でも大きく取り上げ、全職員上げて力を入れて取り組む。

生徒の学力向上に向けての原動力が卒業後の進路について具体的に考えることと密接に関係している。生徒が夢や希望を持ち、自分の将来について具体的に考えることの重要性についてしっかりと共有し、キャリア教育とも関連させた進路学習を推進していく。その際、第1学年から第3学年までを見通した系統的なキャリア教育、進路指導に配慮する。